

天文学とプラネタリウム

第70回



今月のお題

都会での星の楽しみ



■日本天文学会の春季年会、天プラも参加！

天文ファンにとっては、あまり魅力的ではない都会の夜空。でも、都会ならではの星空の楽しみ方もあるはずです。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (台湾 国立清華大学)

都心だからこその楽しみ方がある

昨年12月号の本コラムでも紹介したように、天プラでは2009年6月から、東京都心にそびえ立つ六本木ヒルズにて、天体観望会と天文講演会を定期的に開催しています。地上238メートルの展望台から眺める東京の夜景は素晴らしい、2009年中にはのべ4000人を超える方に参加していただきました。今年も、六本木ヒルズならではのイベントを仕掛けていきたいと考えています。どうぞご期待下さい。こんなことやったら楽しいんじゃない？という意見も大歓迎です！

さて、この六本木ヒルズで天体観望会、はたして星はよく見えるの？都心で星見なんてして楽しいの？という質問を受けることも少なからずあります。確かに夜空が暗く、たくさん星が見えるところに比べれば星空の迫力はいまひとつです。しかしながら、都会には都会の星見の魅力があると、私たちは思うのです。今回のコラムでは、都会の夜空の魅力について考えてみましょう。

六本木ヒルズから眺める東京の夜空は明るく、天候に恵まれた日でも3等星がぎりぎり見えるかどうかです。しかしながら、六本木ヒルズに遊びに来る方は、ふだんまったく星を見ることがない方がほとんど。そのような星空初心者の方にとっては、まずは明るい有名な星がどこに見えるのかを学ぶ上で、星の数が適度に間引かれた都心の夜空はちょうど良い入門編なのです。望遠鏡で狙う天体も、月や惑星、明るい恒星や星団など、観望しやすいものを選んで紹介しています。このようなものを観望する限り、都会の夜空であるハンデはほとんど感じません。

そもそも、天文学の魅力のひとつは、見えている情報を足がかりに想像を広げることではないでしょうか。私たちの銀河系は10万光年におよぶ広がりを持ち、そこにはおよそ1000億の星があります。しかし、実際に夜空で見える星は、6等星まで見えても大部分は数百光年以内の近場の星たちです。つまり、いくら夜空が綺麗で星がよく見える場所でも、銀河系にある星の数

六本木天文クラブでの観望会のひとこま。

にして1億分の1、広さにして1千分の1しか見えていない事になります。夜空に見える星と星の間に広がる一見するとなにもない空間にこそ、さまざまなドラマが隠れている、そのことを想像する力があれば都会の夜空も魅力的に見えるのではないのでしょうか。

どうしても星の数では分の悪い都心の夜空ですが、悪い点を嘆いていても仕方ありません。仕事帰りに気軽に星を観ることができ、星を見た後に仲間と一杯なんて楽しみも、都心ならではの楽しみ方です。星ナビ読者の皆さんだからこそ気づく都会の星見の魅力を探して、一緒に星空を楽しむ仲間を増やしていきませんか？